

大正橋は、大正4年8月に市電の開通とともに架けられたアーチ橋。長さ90.62m、幅22.15mで橋の運行を妨げないよう橋脚を持たない橋として設計された。

市電の廃止後の昭和44年4月に、交通混雑緩和のために広い橋が必要となったことから架け替え工事が開始され昭和49年3月に新大正橋(長さ79.96m、幅44m)が完成した。架け替え工事は、下流側に橋を架け、古い橋を取り去った後に次の橋を架ける手法で、2つの橋を合わせて現在の大正橋となっている。

この橋の欄干を五線譜に見立てて、ベートーベン作曲の第九の譜面が、また歩道にはメトロノームの堰堤、路面にはピアノの鍵盤がデザインされています。

